

秋田県男鹿市コミュニティデザイン調査研究報告

鍵屋 一・鶴 理恵子

Community Design Research Report for Akita Prefecture Oga City

Hajime KAGIYA ・ Reiko TSURU

秋田県男鹿市で、2018年9月9日から14日の6日間、コミュニティデザイン学科3年生2名、2年生2名及び引率教員2名が、コミュニティデザイン調査研究を行った。男鹿市と跡見学園女子大は、2015年12月、地域連携協定を締結した。今回の調査研究は、一昨年度、昨年度に引き続いての3回目である。

調査研究の概要は、事前に男鹿市及び大潟村の文献を調査し、男鹿市のコミュニティデザインの方向性、フィールドワークの手法を学んだ。現地では、男鹿市及び大潟村における人々の取り組みをヒアリングするとともに、市内で活動している地域、場所を訪問した。フィールドワークの記録をもとに、教員の指導によりグループワークで研究を深めた。研究成果については、男鹿市長、幹部職員、及び地域おこし協力隊の前で学生がプレゼンを行った。

1. 参加者

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科

鶴理恵子教授、鍵屋一教授

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科3年

児玉麻衣、山崎菜那

同2年

石塚千鶴、金井海生

2. 期間

平成28年9月9日から14日（6日間）

3. 場所

秋田県大潟村及び男鹿市内

4. 活動概要

■9月9日（日）

- ・12時20分 秋田空港発 14時03分 八郎潟駅着
- ・宿バスお迎え 14時30分 サンルーラル大潟着
- ・干拓博物館見学 宿泊

■9月10日（月）

- ・大潟村発
- ・9時30分 大潟村干拓博物館 第1次入植者、若い世代などにインタビュー
- ・12時 オガーレ見学、昼食

- ・13時 地域おこし協力隊にインタビュー、ディスカッション（4名）
- ・15時 西海岸経由、雄山閣泊

■9月11日（火）

- ・10時 なまはげ館、真山伝承館にて、地域の伝統文化を学習
- ・15時 安全寺棚田オーナー、から聞き取り
- ・17時安全寺発 男鹿駅（鶴教授はここで帰京）（雄山閣泊）

■9月12日（水）

- ・終日プレゼン資料作成
- ・オートキャンプ場で地域おこし協力隊、男鹿市職員とバーベキュー

■9月13日（木）

- ・午前プレゼン資料作成
- ・15時 男鹿市長プレゼン
- ・改装後の男鹿駅、まちのたまり場などまち歩き
- ・18時30分 男鹿市民意見交換会陪席

■9月14日（金）

- ・12時40分 秋田空港発

5. 具体的な成果

東京の女子大学生の観点から大潟村や男鹿市で生活している人々のヒアリングを行った。各人がキーとなる言葉をポストイットに残し、全員で検討しながら紡いでいった。その際、「人の幸福は良い人間関係によって築かれる」というハーバード大学の研究結果をベースに検討を重ねた。その結果、すべての活動主体が「気づき、きっかけ」「新たな活動」「活動の原動力」「より良い人間関係」のパターンをもつことに気づき、その項目ごとにヒアリング内容を整理した。

研究内容は、下記の資料にまとめ、プレゼンを行った。

6. 地域への還元の内容とその実施方法

一昨年度は800の男鹿の魅力を学生の視点で取り上げ物語を紡いだ。

昨年度はジオパークを中心に事前学習、フィールドワークを行って教育レベルを深め、新たに700の魅力を加えた。また、「男鹿の魅力、ジオを使った観光ストーリー、住民と多様な主体の関係づくり」を10月の男鹿半島大潟ジオパーク全国大会に出展した。

今年度は、9月13日、男鹿市長、教育長はじめ市役所職員、地域おこし協力隊等の前で、パワーポイントを使ってプレゼンを行った。その後、30分間ほど、市長及び教育長と熱心に質疑応答を行った。都市の女子大生の視点から、大潟村、男鹿で活発に活動している人々が、同様なパターンをもっていることが強い関心をよんだ。作成物は男鹿市に提出し、地域の魅力増進に役立てていただく。

男鹿 コミュニティデザイン調査研究 (抜粋)

跡見学園女子大学

観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科

人生を幸せにするのは何？

ロバート・ウォールディング「心理学者、ハーバード成人発達研究4代目リーダー」最も長年に渡る幸福の研究から 出典:TED.com(2016年2月2日)

- ・75年間724人の男性を追跡し 休むことなく仕事や家庭生活 健康などを記録
- ・1番目のグループはハーバード大学の2年生
- ・2番目のグループは極貧環境で育った少年達

人を健康で幸福にする
のは 良い 人間関係
に尽きる

2大潟村



2-3より良い人間関係

- ・生活にストレスがない
→より良い人間関係が築けているのではないかな
- ・当時の写真を見ただけで誰だか分かる
→当時からの強いつながりがあるのではないかな
- ・昔のことを伝えることが生きがい

3安全寺



3-4より良い人間関係

- ・集落のほとんどの人が保全会に参加している
→保全会がなかったら、町はなくなってたかもしれない
- ・道で気兼ねなく話しかけられる
- ・協力隊と信頼関係を築いた

4地域おこし協力隊



4-3より良い人間関係

- ・協力隊員の方々は定住希望
 - ・住民方との程よい距離感
 - ・移住者と住民の混ざり合いを大切に
- 地域と意見が一致





5男鹿をむすび

長年行われている伝統文化、つくりあげてきた地域と

自然を守りたいという想い、人と人とのつながりの大切さを大湊村、地域おこし協力隊、安全寺里山保全会の方たちから感じ取ることができました。



ご清聴ありがとうございました！ 

